

豊かな山の恵み

公園の地形は、山が特徴的ある。山は地域の景観の中心であり、地球を形成してきたダイナミックな力のそびえ立つモニュメントである。それぞれの山は、ユニークな地質学的歴史と独特の外観を持っており、公園の景観に非常に多様性をもたらしている。

景観はどのように形成されたか

500 万年前の日本列島は、まったく異なった姿をしていた。景観の大部分は浅い海に覆われていた。実際、東京を含む関東地方の大部分は、地質学者の間ではフォッサマグナと呼ばれる巨大な海溝の一部であった。妙高・戸隠地域はこの海溝の北側に位置している。その後、地殻プレートの変動や地下のマグマの圧力により、海底は徐々に上昇していった。その結果、地殻変動に伴う火山の噴火や地滑りによって、大量の土砂が発生した。河川などの水路がその土砂をフォッサマグナに運び、ゆっくりと海溝を埋めていったのである。

約 70 万年前には、妙高・戸隠地域の海は完全に干上がり、地殻変動が激しくなっていた。現在の公園の境界線のすぐ西側には、ユーラシア大陸プレートと北米大陸プレートがぶつかる糸魚川-静岡構造線がある。その断層線に沿って反対方向の地殻変動が起こり、土地は崩れ上昇し、火打山や戸隠山などの非火山性の山が形成された。妙高火山群の最初の火山である斑尾山も、この時期に形成された。

約 34 万年前、妙高火山群の他の地域でも火山噴火が始まった。最初に飯綱山が噴火し、続いて約 30 万年前に妙高山が噴火した。その後、25 万年前に黒姫山が追隨した。焼山は比較的新しい火山で、最初の噴火はわずか 3,100 年前である。

火山系の山

- 焼山（2,400m）：活動中；定期的に状況を確認
- 妙高山（2,454 m）：活動中；噴気を上げている
- 黒姫山（2,053 m）：活動休止中
- 飯綱山（1,917 m）：活動休止中

非火山性の山

- 雨飾山（1,963 m）
- 火打山（2,462 m）
- 高妻山（2,353 m）
- 戸隠山（1,904 m）

一目五山：数え切れないほどの山の景色

公園内の山々の密度と多様性から、文字通り「一目で五つの山」を意味する一目五山という言葉

が生まれた。これは特定の 5 つの山を指すのではなく、妙高戸隠エリアでは地平線のどの位置にあっても複数の山で満たされていることを意味している。

自分だけの一目五山を見つけよう

公園は、「一目五山」の名の通り、山の景色が非常に豊富である。2017 年には、「一目五山の絶景 32 選」というコンテストが開催された。日本で 32 番目の国立公園に指定されたことを記念して、32 枚の写真が選ばれた。場所、季節、天候、光の具合など、さまざまな条件での五山の姿が収められており、同じ景色は存在しない。妙高戸隠連山国立公園の山々は、カメラで撮るにしても、心で見るとしても、無限の多様性と可能性を秘めている。

公園の山々を知る

雨飾山の双峰から、戸隠山脈のギザギザした崖、妙高山、黒姫山、飯綱山のなだらかな斜面など、公園内の山々は独特な形をしている。これは、それぞれの山が形成された地質学的なプロセスの違いによるもので、そのユニークな姿から、古くから山岳信仰の対象となってきた山もある。

公園内の山頂の名前と形を覚えておくと、フィールドに出たときに山を見分けるのに役立つ。

妙高山の成り立ち

妙高山は成層火山で、溶岩や火山灰、スコリアが何層にも固まってできた円錐形の火山である。妙高山は、「世代」と呼ばれる 4 つの主要な段階で形成された。

第 4 世代、第 1 期（約 4 万年前）

第 4 世代の形成が始まった頃の妙高山は、現在とは全く異なる姿をしていた。富士山のような円錐形をしており、山頂の高さは 2,700～3,000 メートルあった。

第 4 世代、第 2 期（約 2 万年前）

この時、加圧された蒸気の爆発で山頂が粉々になった。その後、火山の中心部が内側に沈み、馬蹄形のカルデラが形成されるという大規模な崩壊が起こった。カルデラの外縁（現在の妙高山の山頂を囲む火山の縁）には、赤倉山や前山などの山がある。

第 4 世代、第 3 期（約 6,000 年前）

この段階では、カルデラの中心部から火山岩や火山灰が噴出し、噴石丘が形成された。徐々に粘性の高い溶岩が流れ出し、冷えて固まり、現在の妙高山の山頂である中央溶岩ドームが形成された。

第 4 世代、第 4 期（約 5,000 年前）

山頂からは断続的に溶岩が流れ続け、約 5,000 年前に火砕物（火山岩、火山灰、加熱された

ガス) の大噴火が発生した。